

児童発達支援事業所における自己評価結

公表:令和 6年 2月 21日

事業所名 キノコにじいろクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0		
	2	職員の配置数は適切である	8	1	今年度はICTを導入や記録の見直しなどの業務改善を行いました。	人員が足りず職員の負担が大きくなったり、利用をお断りすることもあったので、来年度は運営の見直しを行います。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	2 ※無回答1	受け入れ時の流れや片付けの場所、活動の流れを写真や絵カードを用いてわかりやすくしています。	トイレへの段差があり、完全バリアフリーではないので対応を検討していきます。物の整理整頓ができていないことがあるため定期的な物品や環境の点検を行なっていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	衛生管理マニュアルに則った毎日の清掃に加え、毎月清掃週間を設けたり、年2回は大掃除を行なっています。	乳児の利用もあるのでより衛生面や安全面に配慮してまいります。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0	毎月支援者会議、バックヤード会議を全員参加で行い、目標設定と振り返りを行なっている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	年に1回の評価実施に加え、イベントや勉強会ごとに保護者向けアンケートを実施しています。今年度は情報発信についてのアンケートも行いました。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	※無回答2	事業所評価の結果はホームページで公開し、保護者説明会でも詳細を伝えています。	職員にも評価結果の共有をしていますが、年度途中に入職した職員には説明できていなかったため、新人向けオリエンテーションに加えていきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	※無回答2	第三者委員を設置し、定期的に見学にきていただいています。	評価結果を出せていないので項目作りから行なっていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	事業所内での勉強会や実践研修、外部講師による研修を実施しています。外部主催の研修参加の呼びかけも行なっています。	カリキュラムやシラバスを作成して、個々のレベルに合わせて段階的に学べるシステムを構築していきたいと思っています。

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	見学や初回のアセスメントは全員で共有し、支援の方向性を考える時間を設定しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	※無回答1	利用開始までに回答してもらったアセスメントツールに加え、事業所独自の評価バッテリーを活用しています。	改めて周知します。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	週1回ケースに関する検討を行い、事業所で行う本人支援、ペアレントトレーニング、訪問支援の具体的な支援の方向性を確認しています。	児童発達支援計画の内容を把握し、事業所での通所支援(発達支援)、ペアトレや相談支援(家族支援)、保育所等訪問や関係機関との連携支援(地域支援)について各自の役割を確認していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	児童発達支援計画の作成後、翌週までに共有を行なっています。	支援の内容が計画に沿っていない場合は、職員間で計画の見直しの必要性などを検討します。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	支援記録の記載で支援のポイントを3つに絞り、担当が変わっても連続性が持てるようにしています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	新たなプログラムの開発も兼ねて、職員間だけでの遊びの時間(チャノミケーション)を行なっています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	9	0	個別活動と集団活動の両方に個々の課題を組み込んでいます。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	前日に配置の確認ができるようにし、事前にイメージできるようにしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	特に気になったり、共有が必要なケースに関してはLINEも活用して振り返りを行なっています。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2	気になったことや、成長点など都度共有しています。	支援後に記録はするものの、共有まではなかなか難しいため、支援前に打ち合わせの時間を確保していきます。	

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	定期的に保護者や本人のニーズを確認できるよう普段からのコミュニケーションを心がけています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	子どもの状況をよく知り、専門的知見で説明できる職員が参画しています。	その子どもの情報共有の徹底に努めます。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	乳児検診や地域の親子教室にも参加しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在該当なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在該当なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2 ※ 無回答3	日頃から保育所等訪問支援を通じて関係性を作り、事前の情報共有を行うとともに、担当者会に必ず参加しています。	「移行支援」の定義を理解できていない職員がいそうなので、改めて共有を行います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	次年度進学となる利用児をリスト化し、早めに情報共有が始められるように関係機関と連絡をとっています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0	島内外問わず交流があります。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	0	イベント時は兄弟の参加も呼びかけています。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	0	積極的に参加しています。	

	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1	ペアトレに参加できない保護者にはお迎え時に必ず情報共有を行なっています。	こちらで送迎をしている場合十分に共有できないケースがあるので、定期的にお話しできるようにしていきます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	0	基本的にペアトレ等を通じて家庭との連携ができることを利用開始時にお約束いただいています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	契約時に特に説明が必要なこと、強調したい部分などを意識してお伝えしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	ガイドラインに示された支援内容と、保護者の意向や園での様子から検討した支援内容を擦り合わせて説明を行なっています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	ペアトレ時はもちろん、電話やLINEなどでも相談を受け付けています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2	勉強会やイベントの中で交流の機会を作っています。	より気軽に保護者同士が関わられる居場所づくりを進めています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	保護者からの相談や申し入れはすぐに対応し共有しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	月だよりやSNSを利用した発信に加え、ホームページを活用しての発信を増やしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意し	9	0	個人情報の公開範囲を一覧にしたり、人権擁護のアンケートを取るなどして意識化しています。	

	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	必要に応じて写真や絵を用いたり、個別対応をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	2	イベントの外部講師やボランティアを募るなど地域の方々と関わる機会も作っています。	今後も関われる人を増やしていきたいと思います。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	各マニュアルを作成し、非常時に対応できるように訓練を行なっています。マニュアルは自由に閲覧できるスペースも設けています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	年間で避難訓練実施計画を作成し、実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	2	利用開始時に保護者に聞き取っています。特にキャンプなどの宿泊が伴う場合は詳細に状況を確認しています。	リスクのある子に対しては管理継続、共有を徹底します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4 ※無回答1	利用開始時に保護者に聞き取っています。特にキャンプなどの食事や宿泊が伴う場合は詳細に状況を確認しています。	必要に応じてリスト化します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	アクシデントとヒヤリハットに分けて事例集を作成し、すぐに共有するようにしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	所轄組織が開催している研修に参加し、伝達研修を行なっています。職員への人権擁護アンケートも年2回行なっています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	8 ※無回答1	基本的には身体拘束を行わないことを共有した上で、契約時にやむを得ず行う場合の説明と同意書のサインをお願いしています。	必要性や取り組みについて、再度共有します。